



A.R.ペンク《TTT(RT)1》

洞窟絵画のような作品は社会的メッセージを含有

バ スキアに続き、第3回は画家・彫刻家のA.R.ペンク(1939年-)。彼もまた創作活動と並行して、精力的に音楽活動を展開したフリー・ジャズのドラマーだ。奈良美智のドイツ留学中の師でもある。

ドイツのドレスデンに生まれたペンクは、東ドイツで育ち、ジャズのビ・バップに熱中。60年頃から棒状の人物を描き始める。地質学者のアルブレヒト・ペンクに因み、本名のラルフ・ヴィンクラーのRを挿入して、A.R.ペンクと名乗る。冷戦下の東ドイツでは社会主義リアリズムが主流のため、抽象画を描くのは困難だった。変名はそのための措置。

バゼリッツ、リヒター、ポルケらとともに西側で注目され、80年に西ドイツに移住。97年には世田谷美術館で回顧展が開かれた。

《TTT(RT)1》は連作のひとつで、同サイズの(RT)2と(RT)3が存在する。一見すると原始時代の洞窟絵画やエジプトのヒエログリフのようでもある。画中の「A=A」は論



A.R.ペンク《TTT(RT)1》 1985年 アクリル、カンヴァス
218.5×193.0cm 世田谷美術館蔵
© VG BILD-KUNST, Bonn & JASPAR, Tokyo, 2016
G0382

理学でいう「トートロジー(恒真式)」のこと。「AはAだからAである」のように、意味のない同語反復を示す。画面の半分を赤と黒の人物が互いに武器を携えて向き合う、その様子は東西の不毛なイデオロギー対立の象徴とも考えられる。

タイトルの《TTT》は、ペンクが参加したバンド名のTriple Trip Touch(別名:T.T.T、TTT)とも共通するのだが、言葉遊びのごとく謎めている。



TTT featuring A.R. Penck +Markus Lüpertz [Konzert in Amsterdam] (LP) 1989年頃

ペンクはドラムを担当、ジャケットの絵はピアノ担当で画家のMarkus Lüpertz が手がけた。このほかにもペンクはたくさんのアルバムを発表しているが、少数のため入手は困難。

紹介してくれたのは

世田谷美術館 学芸員 矢野 進さん

担当した主な展覧会に、「瀧口修造と武満徹展」、「花森安治と『暮しの手帖』展」、「植草甚一／マイ・フェイヴァリット・シングス」、「東宝スタジオ展 映画＝創造の現場」など。



とき えんてい 武満徹「時間の園丁」

無限の時間に連らなるような、 音楽の庭をひとつだけ造りたい

す べての芸術は絶えず音楽の状態に
憧れる」(*)—これはウォルター・ペ
イターの有名な言葉ですが、20世紀を代
表する作曲家・武満徹(1930-96)は、音
楽に閉じ籠もることなく、文芸、美術、そ
して映画に深く親しみ、理解した音楽家で
す。詩人や美術家、映画人との優れた仕
事も多く、世田谷文学館で1999年に「瀧口
修造と武満徹展」を開催。昨年の「詩人・大
岡信展」に続き、本年の「生誕100年 映画
監督・小林正樹」でも小林作品の芸術性をよ
り高からしめる卓越した映画音楽家として
の活躍をお伝えします。

さらに、武満は名文家でも知られています。
文を書くには作曲以上に時間がかかったそ
うですが、そうして生まれた珠玉のエッセイ
「時間の園丁」の一部をご紹介します。

…私には、あと、どれほどの時間が残されている
だろう？ (中略)私は、死の優しさを、信じている。

私もまた、^{とき}時間の園丁だ。

無限の時間に連らなるような、音楽の庭をひと
つだけ造りたい。自然には充分の敬意をはらって、



「時間の園丁」が収録された「遠い呼び声の彼方へ」、1992年、新
潮社。挿画は友人でもある宇佐美圭司。

しかも、謎と暗喩に充ちた、時間の庭園を築く。(中
略)一枚一枚の^{いのち}生命の木の葉を掻き集めて、火を点
す。それは祈りのようなものだ。内面に燃焼する
焔が、この宇宙の偉大な仕組みを、瞬時でも、映
しだしてくれたらいい。

武満没後20年目の本年は追悼演奏会が
多く行われています。音楽愛好者の方々には、音楽作品の美質と重なるところの多い
彼の文章も読み継いでいただきたいと願っ
ています。*富士川義之訳「ルネサンス 美術と詩の研究」

紹介してくれたのは 世田谷文学館 学芸部 学芸員

世田谷文学館では7/16(土)～9/15(日)、「生誕100年 映画監督・小林正樹」を開催。武満徹の映画音楽を代表する映
画作品「切腹」、「怪談」の上映も予定しています。詳細は問い合わせを。☎5374-9111